

第5回自治医科大学附属病院地域医療連携研究会

効率的な地域医療連携を目指して

- 日 時 平成28年2月6日(土) 18時～20時
- 場 所 ホテルマイステイズ宇都宮
- テーマ 地域医療連携の実践と展望
- 座 長 自治医科大学附属病院 地域医療学センター センター長 梶井英治
- 講 演 I 開業医の立場から
トータルクリニック寺門医院 院長 寺門道之
- II がん診療医の立場から
自治医科大学附属病院 腫瘍センター 教授 藤井博文
- III 訪問歯科診療の立場から
君島歯科医院 院長 君島充宣
- IV 訪問看護の立場から
とちぎ訪問看護ステーションおやま 所長 永井恵子
- 主 催 自治医科大学附属病院
- 後 援 栃木県医師会 栃木県歯科医師会

『附属病院の現況と地域医療連携』

自治医科大学附属病院 病院長 佐田尚宏

略 歴

昭和 59 年 3 月 東京大学医学部医学科 卒業

昭和 59 年 6 月 東京大学医学部第一外科研修医

平成 5 年 8 月 東京大学医学部第一外科医員

平成 6 年 1 月 東京大学医学部第一外科助手

平成 8 年 9 月 キッコーマン総合病院外科部長

平成 12 年 4 月 自治医科大学消化器・一般外科講師

平成 15 年 8 月 自治医科大学消化器・一般外科助教授

平成 19 年 10 月 自治医科大学鏡視下手術部、消化器・一般外科教授

平成 27 年 1 月 自治医科大学消化器・一般外科主任教授

平成 27 年 4 月 自治医科大学附属病院病院長

座 長

自治医科大学附属病院 地域医療学センター センター長 梶井英治

略 歴

昭和 53 年 自治医科大学 卒業

平成 7 年 法医学・人類遺伝学教授

平成 10 年 地域医療学教授

平成 13 年 総合診療部長

平成 20 年 地域医療学センター長

講演 I 『開業医の立場から』

トータルクリニック寺門医院 寺門道之

開業医は、多種多様な疾患を、長期にわたって継続的に診療している。それらの患者さんは、いずれは、大きな病院で診断を受けなくてはならなかったり、治療を受けなくてはならない場合が起きてくる。その時に、患者さんが病院で良い医療を受けるためには、開業医からの適切な情報提供は不可欠であろう。そのためには、どういう情報が求められていて、どう伝えれば、速やかに効率よく連携できるかを開業医が知る必要があるし、また、病院側も、どのようにして欲しいのかを明示する事で、連携の効率化をはかる事が出来ると考える。また、効率よく情報提供できるためには、開業医側も、患者さんのかかえる種々の問題を、プロブレムリストにそった病歴を日頃から、書いておく事が望ましい。

略 歴

昭和54年自治医科大学卒業 僻地診療所、藤枝市立志太総合病院外科医長

自治医科大学地域医療学教室、千葉県安房郡富山町国保病院長

平成3年、小山市にてトータルクリニック寺門医院を開設。

日本プライマリ・ケア連合学会代議員

家庭医後期研修プログラム指導医

栃木プライマリ・ケア研究会副会長。

講演Ⅱ 『がん診療医の立場から』

自治医科大学附属病院 腫瘍センター 教授 藤井博文

がん患者の増加があり、地域を主体とした体制の整備が進められている。地域医療にも、多彩・多様で複雑ながん診療の場が加わってきている。医療提供者の変化も見越して、それに対応できる体制の整備が要求され、がん診療は体制整備のための先導役として活動できる可能性を持っている。

略 歴

昭和 63 年 3 月 昭和大学医学部卒業

平成 4 年 3 月 昭和大学医学部大学院卒業

平成 4 年 4 月 昭和大学医学部附属病院第一内科助手

平成 4 年 6 月 国立がんセンター東病院科学療法科医員

平成 13 年 4 月 栃木県立がんセンター薬物療法科医長

平成 18 年 自治医科大学附属病院臨床腫瘍部部长・准教授

昭和大学医学部兼任講師

平成 20 年 自治医科大学附属病院腫瘍センター長・臨床腫瘍科教授

講演Ⅲ 『訪問歯科診療の立場から』

君島歯科医院 君島 充宣

平成 30 年の地域包括ケアシステムの開始に向け、多職種連携・医介連携の重要度が増している。在宅の要介護者に対し歯科医師は、一般歯科治療の他、誤嚥性肺炎予防のための口腔ケア・栄養確保・会話のできる口腔機能の保持等の役割がある。実は歯科医師・歯科衛生士は介護場面での役割は大きく、健康寿命の延伸に寄与できるのである。

私は平成9年から訪問歯科診療を始めたが、要介護者と向き合うためにはご自宅に訪問しなくてはならず、生活の場である家庭に入るには配慮が必要である。その際に、ご家族は本^{もと}より、ケアマネジャー・訪問看護師・介護ヘルパーとのコミュニケーションが重要であり、随分助けられている。そして同時に、介護に携わっている多職種の方からの訪問歯科診療への要望が大きいことにも驚いた。

終末期患者も在宅で看取られる事例は多く、ご本人も家族も食べることを切望されている。そのため、主治医から在宅での口腔ケアの依頼を受ける。ご本人も介護する人もおいしく食べるために口腔ケアを頑張ろうという張り合いがでる。

また、末期がん患者が「前歯のブリッジが脱落しとても気になるので何とかして欲しい」と訪問看護師に訴えあり、伺ったことがある。麻薬鎮痛薬を服用されており、体に負担にならないよう短時間で仮歯を製作し装着した。患者は半月後に亡くなられたのだが「前歯を入れてあげられてよかった」という奥様の言葉に、私は彼の尊厳を守る一助になれた気がした。

現在壬生町「みぶの会」・栃木市「蔵の街コミュニティケア研究会」などで多職種の方の意見を聴く機会がある。書面だけでなく直に話すことで理解は深まる。また、このようなハブ組織がないと医療連携はうまくゆかないように思う。連絡ツールとしてみぶの会ではネットを利用した掲示板を活用している。相手の状況にとらわれず、報告事項を入力でき、また質問を率直に書けるので有効である。

略 歴

昭和58年3月 昭和大学歯学部歯学科 卒業

同年4月 同学部小児歯科学教室 入局

平成9年4月 壬生町にて「君島歯科医院」開業

同年より、訪問歯科診療を開始

現在 下都賀歯科医師会理事 医療連携担当

昭和大学スペシャルニーズ口腔医学講座

口腔衛生学部門研究生

日本障害者歯科学会 会員

講演Ⅳ 『訪問看護の立場から』

とちぎ訪問看護ステーションおやま 永井恵子

在宅で疾患や障害を持ちながらも、その人らしい生活をしている方々を支えていくには、医療だけでは、成り立ちません。

療養者ごとに個別性がありますが、介護、福祉の面からの多くの方々の支援が必要となります。

医療保険と介護保険の両方から、看護を提供する訪問看護は、医療と介護の職種の橋渡しの役割があると言えます。

平成 18 年「とちぎ訪問看護ステーションみぶ」において 地域の医師と共に「みぶの会」を立ち上げ、月に 1 回、医療、介護、福祉、行政と多職種に参加により、研修、事例検討を行うとともに円滑なコミュニケーションが図れるようになりました。また、この会の開催を利用者さんに伝えることにより、安心感を得られています。

略 歴

昭和 50 年 神奈川県立衛生短期大学卒業

昭和 50 年 国家公務員共済組合 虎ノ門病院勤務

平成元年 獨協医科大学病院勤務 訪問看護

平成 9 年 栃木県看護協会 とちぎ訪問看護ステーションみぶ

平成 26 年 栃木県看護協会 とちぎ訪問看護ステーションおやま

平成 15 年 介護支援専門員指導者

平成 20 年 栃木県がん総合対策検討委員

平成 22 年 県南地域医療連携ネットワーク検討会議委員

・日本褥瘡学会会員・認知症ケア専門士・小山市民会議メンバー

衛生福祉大学 NHO 栃木病院看護学校 非常勤講師

平成 26 年 栃木県看護協会 看護大会 会長賞 受賞

平成 27 年 第 43 回 医療功労賞 受賞